

## 1. 課 題

### 全体

- ・活用する力、記述することに課題があり、自ら自分の考えを持ち、表現できる児童の育成が必要
- ・達成感を味わえる経験が不足
- ・生活規律を守り、規則正しい生活を行う基盤の形成
- ・特別支援を必要とする児童の増加
- ・家庭での学習習慣が確立しにくい

### 国語について

- ・理解能力に比べ活用能力に全国と比較し、開きが大きい。
- ・漢字の読み書き、短答は全国平均を上回った。
- ・自分の思いや考えを自分の言葉で表し、友だちの意見を聞き比べる力に欠ける

### 算数について

- ・理解能力に比べ、活用能力において全国平均と比較すると大きな開きがある
- ・割合、立体での正答率が低い
- ・記述の正答率が低い。また、文章題を最後まで考え抜く力が不足している

### 学習状況について

- ・知識としては、全国と比べ大きく差がないものの、活用する力が国語・算数において不足している。
- ・無回答の児童が少なくなり、考える力はついてきたが、うまく表現できない児童が多い。

## 2. 学力のとらえ方

### 学力とは

#### A：基礎・基本

- ・学習規律と学びの基本の徹底
- ・基礎的、基本的な内容の確実な定着

#### B：活用・思考・判断・表現

- ・伝え合う力（話す力、聞く力）の育成  
課題解決学習、体験的学習の重視（きらめきタイム）

- ・自分の考えを持ち、ことばや文で表現する

#### C：学習意欲・習慣

- ・学ぶ意欲の向上と学習習慣の確立
- ・家庭学習の習慣化～学び方の指導～
- ・生活規律の向上

## 3. 改善の状況

- 朝学習での読書や基礎的学習の反復練習の成果により、基礎的学力の向上につながっている。
- 予習を取り入れた授業づくりに取り組み、課題を共有して学習に望めるようになった。

## 4. 今年度の指導目標

- ‘こうか授業術「5箇条」'を核とした主体的に学ぶ力を育成する授業（予習の習慣化、学び合う授業、考えを持ち表現できる授業）
- 家庭と連携した生活規律の確立（学年×10分以上の学習習慣、規則正しい生活習慣）

## 5. 学力向上へのアプローチ

### ◎Aへのアプローチ

- ・学習規律と学びの基本の徹底  
伴小タイム（朝学習）を活用し、読書や漢字・計算の反復学習や音読等を行う。
- ・基礎的、基本的な内容の確実な定着  
基礎学力や学習姿勢に課題のある児童に対し、個別指導計画に基づいたきめ細かな指導を展開する。  
読書が好きな児童を90%にする。  
別室登校児童の学力補充やカウンセリング、家庭学習の指導  
つまづきテストの活用など、課題のある児童への学力補充（昼休み、放課後）

### ◎Bへのアプローチ

- ・伝え合う力（話す力、聞く力）の育成  
課題解決学習、体験的学習の重視（きらめきタイム）
- ・学び合いを通して、互いの考えを聞き、自分と比較し、自分の考えを持たせ、表現する授業の日常化を図る。（話し合う活動や発表する場があるという児童を90%以上にする）
- ・学校組織での先を見通した計画的な教育課程の編成と授業研究会の開催
- ・国語科と算数科で、予習を活かした児童同士の交流のある授業づくりを実践する。

### ◎Cへのアプローチ

- ・学ぶ意欲の向上と学習習慣の確立・・・子どもの「もっと」を促す指導  
めあてとゴールを提示し、課題意識と達成感を持たせる。
- ・家庭との連携による家庭学習の習慣化～家庭学習のすすめ作成と活用～  
個に応じた家庭学習についての指導・支援を行う  
平日、学年×10分以上家庭学習する児童の割合を80%以上にする
- ・生活規律の向上  
生徒指導を中心とした、子ども自らがつくる学校のきまりなど自主的な児童会活動の実践  
保護者と連携した生活基盤、生活習慣づくり

## 6. 学力向上の検証

- ・全国学力・学習状況調査（結果から見える自校の課題分析と課題解決策の共有）
- ・学校評価（教師、保護者、児童、学校評議員）
- ・評価規準に基づいた指導と見直し（5月 10月）
- ・学力向上策の細部検討、修正（5月 10月）
- ・校内研究会による予習を活かした授業の実践と協議